

② 地域課題を解決するオープンイノベーションプラットフォーム「ローカルグッドヨコハマ」

―新しい公共に果たすその役割と可能性

執筆

内田 篤宏

アクセンチュア株式会社 インフラ
ストラクチャサービスクループ兼
コーポレートシチズンシップ推進室
若者の就業力・起業力強化チームマ
ネージャー

宮島 真希子

特定非営利活動法人横浜コミュニ
ティデザイン・ラボ理事

1
はじめにー地域課題解決
プラットフォームとして
のローカルグッドヨ
コハマ

地域課題が複雑化・多様化する一方で、地方財政は社会保障費の増加に伴い厳しい状況に立たされている。そのため、これまでの行政主体の公域に加え、企業もNPOも地域も共に課題を解決していく「新しい公共」の構築が求められている。

LOCAL GOOD YOKOHAMA



図1 「ローカルグッドヨコハマ」ホームページ

(以下ローカルグッド)は、こうした新しい公共の考え方に基づいて、地域社会の中に持続可能な形で「資金」や「人的リソース」の循環を生み出すことで、地域課題を解決したり、地域をブランディングすることを支援するプラットフォームである。

ローカルグッドの運営は、特定非営利活動法人「横浜コミュニティデザイン・ラボ」(事業所:横浜市中区、代表理事:杉浦裕樹、以下ラボ)とアクセンチュア株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:程近智、以下アクセンチュア)が担っている。このように企業とNPOが協働で運営することによって、企業が持つICTの力とNPO法人が持つ幅広い地域のネットワークを組み合わせることができるといえる。これによって、個人や団体のつながりをデザインし、地域に新しい公共を創り出し、いくことが可能になると

考え、2014年6月から試行的運用を開始し、同年10月から本格稼働させた。

2 ローカルグッドヨコハマの3つの機能

ローカルグッドは、地域課題を解決するためのICTプラットフォームとして、3つの機能を持っている。一つは、ソーシャルメディアやスマートフォンアプリなどを活用して広く市民が抱える課題を集める機能。2つ目は、集めた課題を3Dマップ上に表示したり、データマイニングの手法によって分析するなど課題を視える化する機能。さらに、課題を解決するために「クラウドファンディング」(インターネットを活用して、不特定多数から資金調達を可能にする仕組み)などを通じて広範な市民の参加を促す機能である。

以下にこの3つの機能の詳細を紹介しながら、ローカルグッドというICTプ

ラットフォームが、どのような発想と手法によって地域課題を解決しようとしているのかを検討・検証してみよう。

① 課題を集める

横浜市行政や民間の事業者が取り組むべき公的課題を抽出するにあたって、なるべく多様で大量の市民の声を収集し、分析する仕組みを持つことは新しい公共を実現するうえで極めて重要である。なぜならば行政の意志が必ずしも「公」の意志であることを前提としない「新しい公共」の仕組みにおいては、「公」として取り組むべき課題の優先度をつけていくにあたって、「市民の声」という客観的な根拠が重要な価値を持つからだ。その点でローカルグッドは様々な形で「市民の声」を収集する仕組みを持っている。

一つはこれまでに無い形でICTを積極的に活用した収

集機能。PCやスマートフォンアプリを通じて市民からの投稿を受ける機能やTwitterなどSNS上のつぶやきを自動的に収集する機能がこれにあたる。これによって、これまで行政の広聴の仕組みではなかなか捉えきれなかった若年層の声を収集するチャンネルが広がるのが期待できる。

二つ目は、課題が集積していき先駆的な取組が行われている地域に向いて、取材するというアウトリーチ型のアプローチである。ロボのスタッフやインターンの学生たちが地域で活動する個人や団体に取材（ヒアリング）に行き、記事にまとめる。そして、それらをローカルグッド上で公開すると共にアーカイブとしても蓄積していく機能である。これによって、地域の課題に対してより深くコミットメントし、分析することが可能になる。

三つ目は、「ローカルグッドカフェ」と呼ぶ対話型の課題収集機能である。これは、横浜市内の各地域で住民のための交流・居場所づくりを行っているコミュニティカフェなどの拠点を活用して、ロボが地域で活動するNPOなどと連携し、地域住民

に呼びかけて開催するものである。こうしたリアルな場での対話型の集会を開催することで、ICTへのハードルが高い高齢者も含めて地域の多様な層の方々から日常生活に密着した課題を多角的に収集することが可能になる。これまで、青葉区たまプラーザの「3丁目カフェ」や港北区大倉山の「まめどスペース結」、都筑区仲町台の「いのちの木」、港南区日限山の「さわやか港南」などで開催してきた。

ローカルグッドの場合、この3つの課題を集める機能が一つのプラットフォーム上で連動したり、融合したりしながら取り組まれているという特徴がある。これによってより効率的かつ重層的な地域課題の収集が可能になるのではないだろうか。

② 課題を視える化する

ローカルグッドが持つ重要な機能の一つは、市民から広く集めた課題や行政の考える課題をデータに基づいて視える化する機能である。

例えば、①で集められた市民の声がリアルタイムでGoogleEarth（3Dマップ）上に反映され、誰もが閲覧できる仕組みとなっている。さ

らに将来的にはこのようにラダムに視える化された課題を、データマイニングの手法で分析し、重要度の高いものを抽出したり、つぶやきの数や投稿数に応じて課題が地域別・テーマ別にランキング形式で掲載され、定期的に更新される機能も付与される予定である。

一方で、ローカルグッドは行政の保有する統計データなどを市民にわかりやすい形でビジュアライズする活動も行っている。例えば、横浜市から行政が抱える課題を統計データと共に説明してもらい、その説明に基づいて集まったデザ

イナリーやクリエイター、情報デザイナー系の大学生・専門学校生などがチームに分かれて、横浜市の統計データを市民にもわかりやすい形でイラスト化した作品（場合によってはビジュアライズするためのアプリ）を制作するといったワークショップなどを開催している。

このように行政や市民の抱える課題を視える化する取組

は、課題解決に向けて民間と行政が対等の立場で対話をし、お互いに認識がブレることなく協働・共創を進めていくうえで重要な基盤となる。また解決すべき課題を誰にでもわかりやすく表示することで、より多様で、多数の市民が課題解決の取組に参画する土壌を形成していくという意味でも重要である。

③ 広範囲な参加を促す

ローカルグッドが持つ3つ目の重要な機能は、ICTを活用することで広く市民から課題解決のための資金や人材を集める機能である。

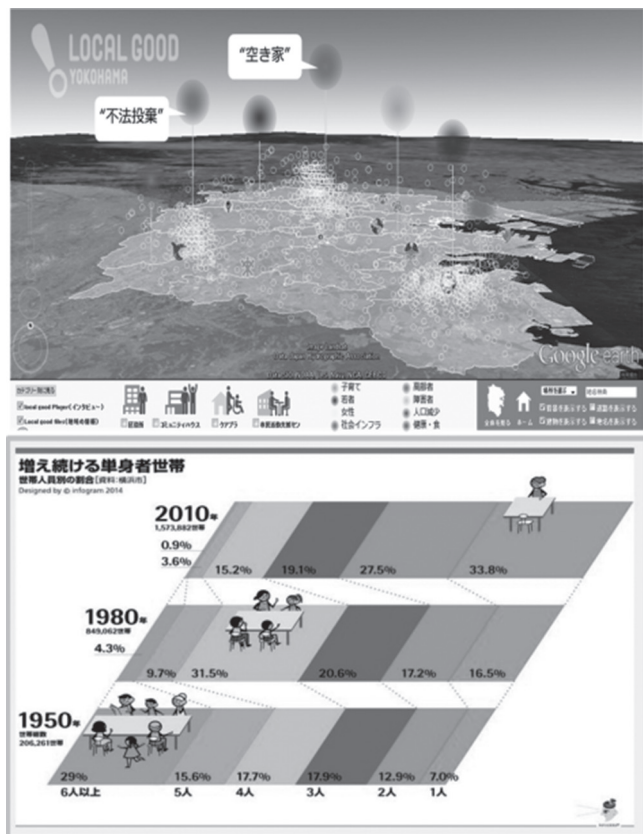


図2 GoogleEarth/インフォグラフィックによる課題表示

すなわち課題解決のためのプロジェクト起案者に対してクラウドファンディングといった資金調達機能やスキルマッチング機能を提供することで、これまでともすれば行政からの補助金や委託費に依存しがちであった民間主体による公的活動に対して、資金や人材を獲得するためのもう一つの選択肢を示すことができる。

超高齢・人口減少社会の到来によって、市民の公的サービスに対する需要が増大するにもかかわらず、行政の持つ公的サービスの財源は縮小していくことが予測されている。また女性の社会進出や單身化の急速な進展、そして社会経済的格差の拡大などによって地域の課題は複雑化・深刻化している。将来に向けてもはや行政単独では公的サービスを担いきれなくなっていることは自明ではないかと思われる。

実際にローカルグッドが、このような地域社会における「資金」や「人的リソース」の循環を促すプラットフォームであることによって、これまでの行政の仕組みでは、フォローしづらく、取りこぼされがちだった課

題に対してチャレンジする民間の事業者が現れ始めている。

例えばローカルグッドの運用開始後に、最初にチャレンジし、資金調達に成功した3つのクラウドファンディングのプロジェクトを見ると、一人暮らしの高齢女性の手仕事技術を活かして、社会参加と居場所づくり、雇用創出を一体的に展開するプロジェクトや、障害者の社会参加と雇用の場を創出する地産地消のレストランを持つ社会福祉施設に地域住民が集える庭を整備するプロジェクト、経済的な不安など様々な困難を抱えている高校生をバイタインと名付けられた有給の就労訓練を通じて地元企業とマッチングするプロジェクトなど、社会的に重要な課題ではあるが、民間が取り組むにあたって行政からの公的資金を受けることが困難なケースを支援する形になっている。

同時に、このようなクラウドファンディングやスキルマッチングの取組を通じて、これまで意志はあっても、忙しいなどの理由で課題解決に参加することのなかった市民が少額の資金提供などを通じて関心を持ち、参加するきっかけが得られるという効果も期待

できる。

課題を集める、視える化する、そして広範な市民の参加を得ながら課題を解決していく。ローカルグッドはこの一連の流れをICTを活用し、包括的に支援していくことを通じて多様な民間が新しい公共を担うことを可能にするプラットフォームといえるだろう。

3 オープンイノベーションのためのプラットフォーム

以上の3つの機能を持つローカルグッドは、複雑化・深刻化する社会課題を解決していくために、多様かつ多数の市民による課題解決への参加を前提にしながら、地域住民・企業・NPO・大学・行政が連携し、これまで考えつかなかったような、新しい形の公的サービスを生み出すことを究極の目標としたオープンイノベーションプラットフォームという性格も持っている。(図3)

ローカルグッドの構築・運用にあたって、横浜市からは資金提供は一切、受けていない。ただプラットフォームの発想の段階から設計、構築、運用に至るまで行政とは

話し合いや勉強会を重ねてきた。また運用にあたっては、オープンデータの提供やデータ活用のためのサポートを受けている。さらに、ローカルグッドが集め、視える化した社会課題の解決や市の将来ビジョンをテーマにして、多様な主体が対話を重ねるフューチャーセッションを共催している。

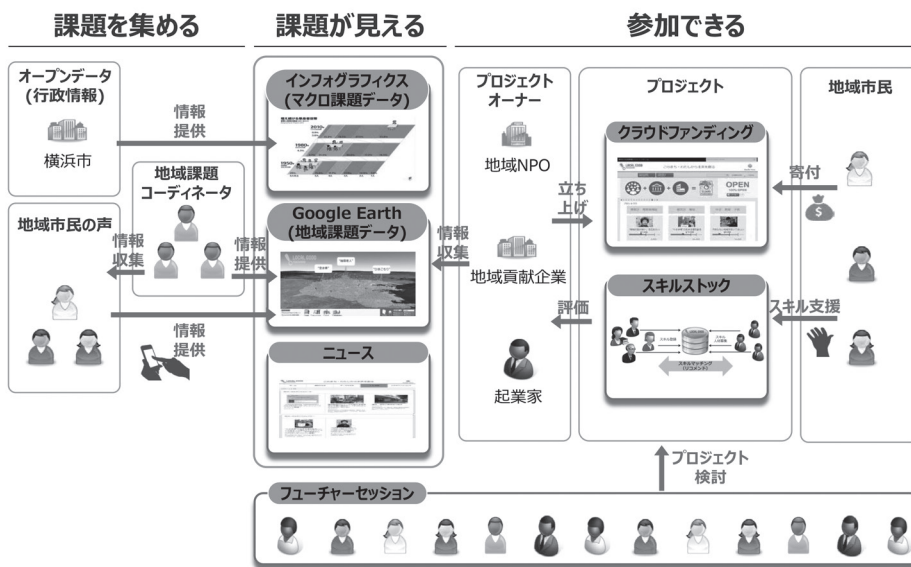


図3 地域課題解決を支えるプラットフォーム

一方で、社会課題に関する専門的な調査研究やプロジェクト評価の仕組みづくり、地域課題のビジュアライズなど学術的な専門性が問われる領域については、横浜市立大学や横浜国立大学、東京都市大など横浜市内の大学と連携しながら取り組んでいる。

このように様々なセクターがそれぞれの役割を果たしながら、開かれた形で共創し、課題解決や地域創生に向けて先駆的かつ試行的な取組を重ねているのが、オープンイノベーションプラットフォームとしての現在のローカルグッドの姿であるといえる。

4 今後の展開についてー 全国展開に向けて

ローカルグッドは、クラウドファンディングによる手数料を主な資金源として、ラボによって運営されている。アクセシビリティは、本プラットフォームの企画・構築をプロボノ（社員の時間とスキルを無償で提供する取組）で行った。今後、サイトの仕組みが円滑に機能し、定着化するまで運用面でもプロボノ支援を行っていく予定である。

そして横浜で蓄積されたノウハウを他都市へ展開してい

きたい。

人口370万人あまりの横浜市は現在、さまざまな社会課題を抱えている。たとえば、横浜地域には高度経済成長期に相次いで建設された大規模団地群が郊外を中心に多数存在し、いずれも高齢化が進んでいるため高齢者の孤立をはじめとする課題に対する対策が求められている。

このように地域によって異なる、さまざまな課題を抱える横浜市は、日本の都市における「社会課題先進地域」であり、日本の縮図とも言える。

横浜において本取組を地域に定着させ、社会課題解決のための知見を蓄積していくことで、横浜以外の地域における取組へ活かしていきたい。

今回、横浜で構築したプラットフォームは今後、日本の他地域へ展開することを予定している。「ローカルグッド」のシステムは、基本部分は無償で利用可能な「オープンソース」の仕組みで構築されており、技術者の協力などがあれば、他地域で同様のプラットフォームが極めて低コストで調達可能なため、容易に横展開することが可能なのである。

今後、他地域にて「ローカルグッド」の仕組みが構築さ

れると、その地域で登録されたデータは全国横断的に共有化され、ある地域の「ローカルグッド」サイトにマイページ登録をおこなえば、他地域のプロジェクトにも寄付やスキルの提供が可能になる。この機能により、個別地域のリソースだけでは解決できない課題についても全国のユーザからの支援を受けることで解決へ導いていく。

また、成果が上がったプロジェクトを通じて確立した運用の手法については、各地域の「ローカルグッド」運営者間で情報を共有し、効率的に「ローカルグッド」の取組を全国に広げていく予定である。

「ローカルグッド」は多様なセクターとの協働のもと、「課題とチャレンジャーが見える・多様な市民が地域づくりに参加できる」全国的なプラットフォームに育てていきたいと考えている。

ホームページ

<http://yokohanalocalgood.jp/>

Facebook

<https://www.facebook.com/LOCALGOODYOKOHAMA>